



夏の天候の見通し 九州北部地方 6~8月

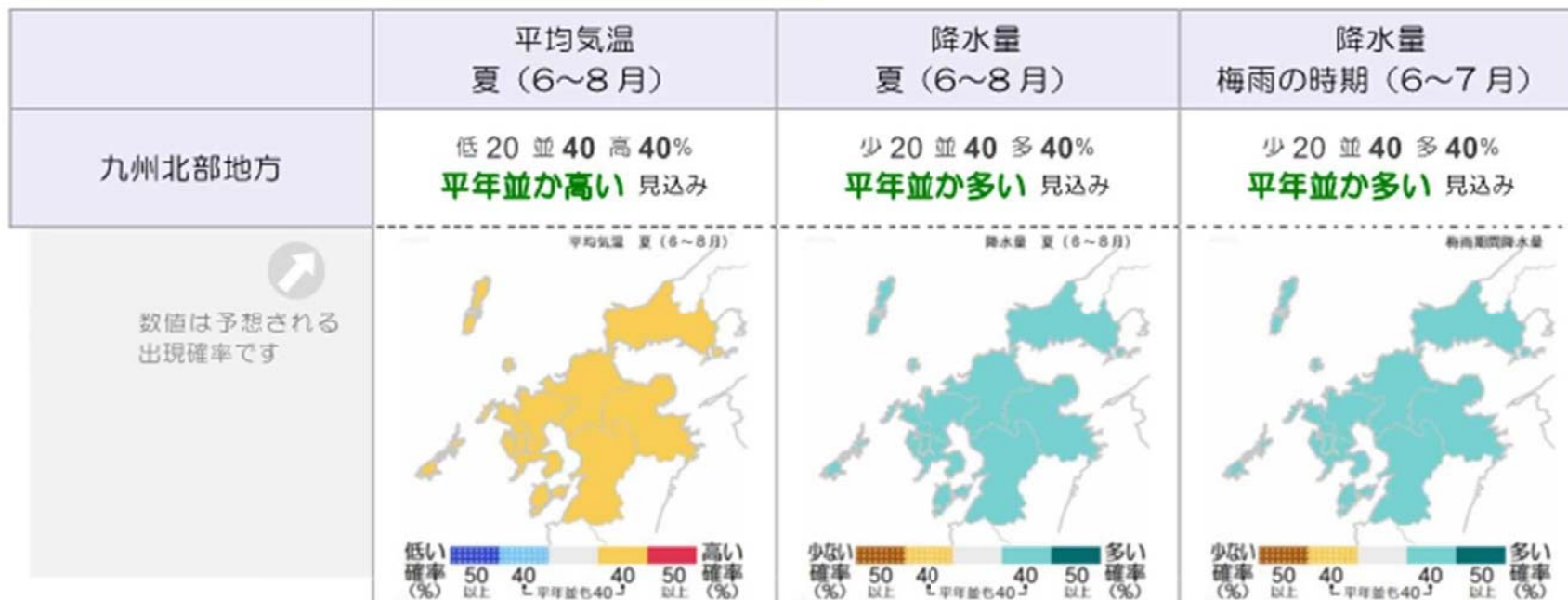
暖候期予報（令和3年2月24日発表）の解説

福岡管区気象台

予報のポイント

- 夏の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、平年並か高いでしょう。
- 梅雨の時期(6月から7月)は、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
- 夏の降水量は、湿った空気の影響を受けやすいため、平年並か多いでしょう。

夏（6~8月）の平均気温・降水量



令和2年7月豪雨の気象と災害の概況

■概要

- ・7月3日から31日にかけて、日本付近に停滞した前線の影響で各地で大雨となり、人的被害や物的被害が発生した。気象庁は、この一連の大雨について「令和2年7月豪雨」と名称を定めた。
- ・7月3日から8日にかけて、梅雨前線が華中から九州付近を通って東日本にのびてほとんど停滞した。前線の活動が非常に活発で、西日本や東日本で大雨となり、特に九州では4日から7日は記録的な大雨となった。
- ・気象庁は、熊本県、鹿児島県、福岡県、佐賀県(嬉野市、鹿島市、太良町、武雄市、白石市、佐賀市)、長崎県に大雨特別警報を公表し最大級の警戒を呼びかけた。
- ・この大雨により、球磨川や筑後川といった大河川での氾濫が相次いだほか、土砂災害、低地の浸水等により、人的被害や物的被害が多く発生した。
- ・7月の月降水量は、佐賀県内全ての観測所で観測史上1位の値を超え、年降水量もほとんどの観測所で観測史上1位を更新した。

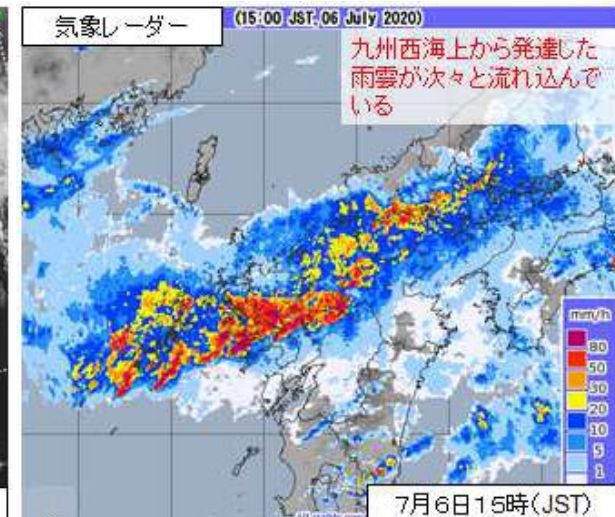
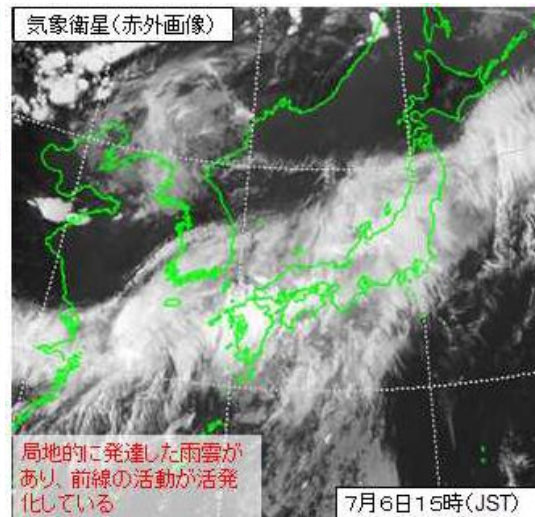
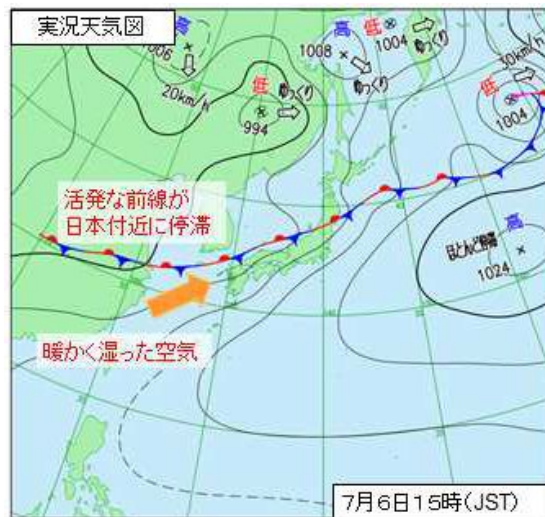
■災害状況(消防庁調べ 7月30日8時00分現在) ※福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県のみ抜粋

福岡県: 死者2名、負傷者6名、全壊4棟、半壊3棟、一部損壊6棟、床上浸水1459棟、床下浸水3514棟

佐賀県: 負傷者3名、全壊1棟、半壊4棟、一部損壊8棟、床上浸水28棟、床下浸水181棟

長崎県: 死者3名、負傷者1名、一部損壊4棟、床上浸水25棟、床下浸水192棟

熊本県: 死者65名、行方不明者2名、全壊223棟、半壊358棟、一部損壊438棟、床上浸水5556棟、床下浸水2144棟



台風第10号:特別警報級の勢力で接近の可能性!

令和2年9月3日16時00分
佐賀地方気象台

台風第10号に早めの備えを!(9月3日)

台風第10号は、今後特別警報級(中心気圧930hPa以下、最大風速50m/s以上)の勢力まで発達し、6日から7日にかけて、奄美地方から九州地方にかけて接近または上陸するおそれがあります。台風の予報にはまだ幅がありますが、広い範囲で甚大な影響を受けるおそれがあります。

台風が接近する地域では、記録的な大雨・暴風・高波・高潮となるおそれがあり最大級の警戒が必要です。特に時間を要する作業などは、週末を迎える前に台風への備えを終わらせるようお願いいたします。

気象庁の発表する最新の台風情報に留意するとともに、気象台が発表する早期注意情報や警報・注意報などの気象情報に留意し、自分の命、大切な人の命を守るため、早めの対策をお願いいたします。

【台風の見通し】

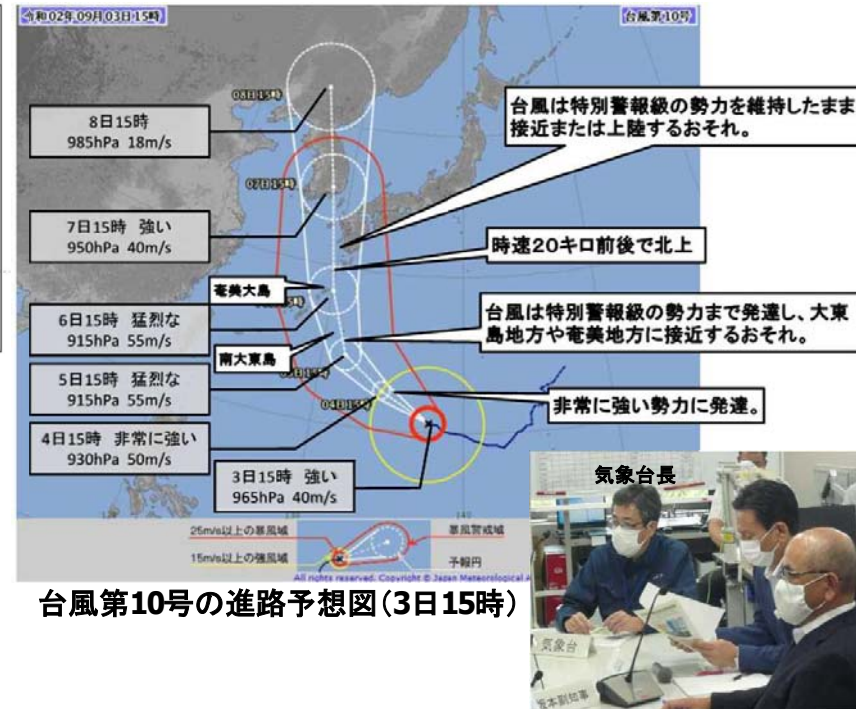
台風第10号は、3日12時現在、日本の南を西に進んでいます。今後、次第に北西に進路を変えて、**特別警報級の勢力まで発達し、6日から7日にかけて奄美地方から九州地方に接近または上陸するおそれがあります。**

■概要

台風第10号は、発達しながら日本の南を西北西に進み、5日から6日にかけて大型で非常に強い勢力で沖縄地方に接近した。その後も勢力を維持したまま北上し、6日から7日にかけて大型で非常に強い勢力で奄美地方から九州に接近した。台風第10号の接近に伴い、南西諸島や九州を中心に暴風、大雨、高波、高潮となった。県内では、**日最大瞬間風速が、川副(佐賀市)で南東の風34.5m/s(7日3時34分)、白石(白石町)で南東の風32.9m/s(7日3時30分)を観測し、観測史上1位の値を更新した。**雨については、宮崎県など九州の東側の地域、および台風の中心から離れた西日本や東日本の太平洋側で大雨となった。この暴風や大雨の影響で、人的被害や住家被害が発生し、飛来物や倒木により高圧線断線等が発生するなど、南西諸島や九州を中心に広い範囲で停電が発生した。

■佐賀県の避難状況等

避難状況:7日05時現在 計9590世帯 20712人(過去最多)、停電状況:7日06時現在 約26,780戸



台風第10号の進路予想図(3日15時)

